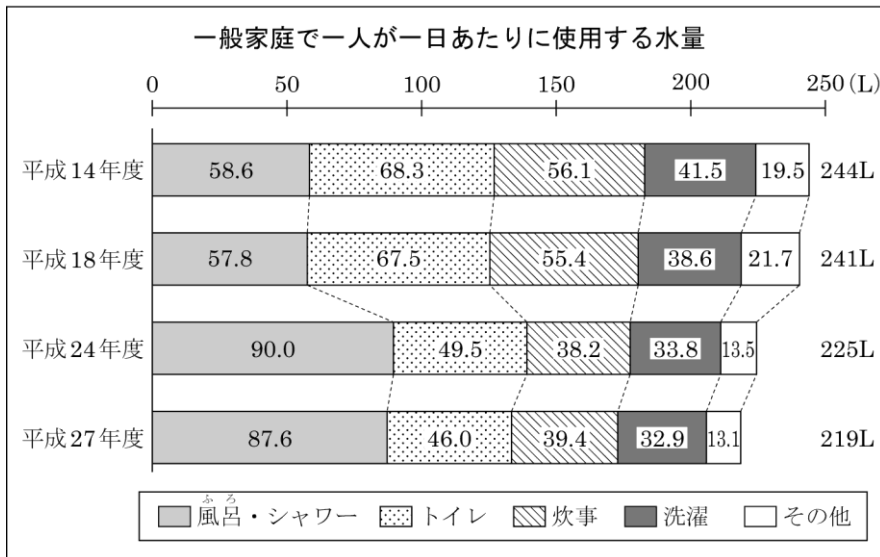


5

中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」で水の使用量について調べ、話し合いをしている。次のグラフ、表1、表2と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

グラフ



東京都水道局「一般家庭水使用目的別実態調査」より作成。

表 2

調査年	豊富に使っている		節水している		特に気にしていない ・ その他
	節水は考えず豊富に使う	節水は必要だが豊富に使う	ある程度節水している	まめに節水している	
昭和61年	12.3%	27.3%	41.5%	9.7%	9.2%
平成6年	9.5%	25.4%	50.8%	9.1%	5.1%
平成11年	6.0%	21.7%	50.3%	13.9%	8.3%
平成13年	5.1%	24.5%	54.2%	10.7%	5.4%
平成20年	4.0%	21.8%	58.3%	14.0%	1.8%

内閣府「『節水に関する特別世論調査』の概要」より作成。

表 1

発売年	機能		
	大	小	eco小
昭和51年	13.0		
平成5年	8.0	6.0	
平成18年	6.0	5.0	4.5
平成19年	5.5	4.5	4.0
平成21年	4.8	4.0	3.8
平成24年	3.8	3.3	3.0
平成29年	3.8	3.3	3.0

一般社団法人日本レストルーム工業会「各社節水便器の変遷」より作成。表1内の「eco小」はごく少量の水を流す場合に使用する機能をさす。

Aさん 私たちは水の使用量について、様々なことを調べてきましたね。近年、家庭用水を含む生活用水の使用量は減少傾向にあり、一人が一日あたりに使用する量も減っているそうです。

Bさん ここでグラフを見てください。一般家庭において、一人が一日あたりに使用している水量を目的別に分け、年ごとに示したものです。これを見ると ことがわかります。

Cさん なるほど。他には、一人が一日あたりに使用する家庭用水の使用量全体が減っていることもわかりますね。

Dさん 水の使用量の変動には、気候や生活スタイルの変化などの影響もあると思いますが、なぜ家庭用水の使用量は減ったのでしょうか。

Cさん それを考えるために、表1を見てみましょう。便器で使用する一回あたりの水量を発売年ごとにまとめたものです。ここからは大きな変化が読み取れますね。使用者が用途ごとに水量を切り替えられる機能も開発されており、公共施設でもそのような機能が搭載された節水便器を見かけることが多くなってきました。

Bさん 便器以外の水利用機器で言えば、風呂水ふろみずをくみ上げる機能がついた洗濯機も販売されています。また、手で洗うときの十分の一程度の水量で洗える食器洗い乾燥機もあるそうです。

Aさん 便器や洗濯機などの水利用機器は進歩してきたのですね。新

しい技術は私たちの生活を快適にしてくれるだけでなく、限りある資源を有効に使うことにも役立ちそうです。

Dさん では、これからも新しい水利用機器の開発が進んでいけばよいということですね。

Bさん 本当にそれだけでよいのでしょうか。表2を見てください。普段の生活でどのような水の使い方をしているか調査した結果を、年ごとにまとめたものです。「節水している」と答えた人は、昭和六十一年では五十パーセント程度でしたが、平成二十年では七十パーセントを超えています。

Cさん 平成二十年の調査で「豊富に使っている」と答えた人の中にも、節水は必要だと考えている人は全体の二十パーセント程度いますから、実践しているかどうかは個人差があるものの、九十パーセントを超える人が節水の必要性を認識していると言えますね。

Dさん 一方、「節水は考えず豊富に使う」と答えた人は、昭和六十一年では十二・三パーセントでしたが、平成二十年では四・〇パーセントとかなり低い割合になっています。節水に対する意識がこれほど変化しているとは知りませんでした。

Aさん これまでの話を総合すると、表1と表2から読み取った内容から、家庭用水の使用量が減った主な理由は、 からだと考えられます。

Dさん　そうですね。本日の話し合いをきっかけに、改めて限りある水を大切に使用していきたいと思いました。

問1　本文中の□に入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1　平成27年度の家庭用水の使用量の中で、「風呂・シャワー」の使用量は、「トイレ」の使用量の半分以上になっている
- 2　平成27年度の家庭用水の使用量の中で、「洗濯」の使用量は、「風呂・シャワー」の使用量の三分の一以下になっている
- 3　平成27年度は平成14年度と比べて、「トイレ」の使用量は三割程度減少しており、「洗濯」の使用量は二割程度減少している
- 4　平成27年度は平成14年度と比べて、家庭用水の使用量全体に占める「炊事」の使用量の割合が、三分の一以下に減少している

問2　本文中の□に適用する「Aさん」のことは、次の①～④の条件を満たして書きなさい。

- ①　書き出しの家庭用水の使用量が減った主な理由は、という語句に続けて書き、文末の□からだと考えられます。という語句につながる一文となるように書くこと。
- ②　書き出しと文末の語句の間の文字数が二十五字以上三十五字以内となるように書くこと。
- ③　表1と表2から読み取った具体的な内容に触れていること。
- ④　「技術」「意識」という二つの語句を、どちらもそのまま用いること。

5

国・20・公・神奈川・K・05

配点

問1 () 3 ()

4

問2 (例)家庭用水の使用量が減った主な理由は、節水便器な

どの技術が進歩するとともに、人々の節水に対する

意識も高まったからだと考えられます。

6

(備考) 中間点は、設けないこと。

疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。

【中間点のある記述問題について】

○ 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。

○ 内容については、中間点を設けないこと。

○ 誤字・脱字(句読点に係る誤りを含む)については、その数にかかわらず二点減点とする。

○ 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。

○ 中間点は、誤字・脱字(句読点に係る誤りを含む)がある場合と表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。

○ 指定語句がある場合、その語句が含まれていない解答は誤答とする。また、指定語句がそのまま書かれていない場合(漢字表記をひらがな表記にしたもの等)や指定語句の誤り(誤字・脱字)についても誤答とする。

○ 問2について

指定語句は「技術」と「意識」である。

得点項目A 内容については、次の二点に触れていること。

(あ)「節水便器などの技術が進歩した」こと。

(い)「人々の節水に対する意識が高まった」こと。

(正答例)

家庭用水の使用量が減った主な理由は、

人々の節水しようという意識が高まり、節水型トイレなどの技術も開発された

からだと考えられます。

家庭用水の使用量が減った主な理由は、

節水便器などの技術が発達し、節水を意識していない人が減ったからだと考えられます。

家庭用水の使用量が減った主な理由は、

水利用機器の技術が進歩したことに加え、人々の節水意識も向上したからだと考えられます。

5

問1

ポイント

グラフを読み取るときには、数値が最も大きいと

ころや、複数の項目で差が大きいところなどに着目するとよい。ここではグラフの平成十四年度と平成二十七年に着目して、選択肢の内容とそれぞれの項目の数値を比較し、正しいものを選ぶ。

問2 話し合いの中で表1と表2について触れている部分をおさえ、家

庭用水の使用量が減った理由となる内容を簡潔にまとめる。表1をふまえて「節水便器」などの「技術」のことを話題にしている部分と、表2をふまえて「水の使い方」に対する「意識」について話題にしている部分に着目する。

〈自己採点のポイント〉

○指定字数は合っているか。

・二十五字以上三十五字以内で書いている。

○条件を満たしているか。

・指定された書き出しと文末につながるように、一文で書いている。

・表1と表2から読み取れる内容を書いている。

・「技術」「意識」という二つの語句を用いている。